

Human ヒューマン

2019.2 Vol.12

CONTENTS

02 特集

人文学部で 資格を取る！

04 記憶地図ワークショップ in 奥尻 谷地地区

06 ゼミ紹介

日本文化学科 鈴木 英之 3年ゼミ (1部)
英米文化学科 小松かおり 3年ゼミ (2部)

07 就活応援 4年生からの体験談

裏表紙 人文学部 TOPICS

人文学会レポート／
人文学の挑戦／
株式会社 AIRDO と教育連携協定締結／
全国高等学校ビブリオバトル 2018 北海道大会開催



文化を学ぶ 世界と繋がる

人文学部で

資格を取る!

人文学部には資格取得に向けた充実のプログラムが揃っています。中学・高等学校における英語や国語の教員、海外に日本の言葉や文化を伝える日本語教師、博物館や美術館の学芸員、本のプロである図書館司書・司書教諭など、人文学部なら憧れたあの職業への扉が開きます!

教職課程



高校生の英語学習を支援するEnglish Support Lounge活動の様子

- 教職課程は、教育職員免許状を取得するための課程です。
- 中学校、高等学校などの教員を志望する人は、教育職員免許状を取得することが義務づけられています。
- 人文学部では、所定の単位を取得すると、**中学校教諭1種免許状(国語・英語)**、**高等学校教諭1種免許状(国語・英語・地理歴史)**が取得可能です。

取得可能な教育職員免許状の種類と教科

大学	学部	学科	中学校教諭1種免許状	高等学校教諭1種免許状
	人文1・2部	日本文化	国語	国語 地理歴史
		英米文化	英語	英語 地理歴史
大学院	研究科	学科	中学校教諭専修免許状	高等学校教諭専修免許状
	文学	日本文化	国語	国語 地理歴史
		英米文化	英語	英語 地理歴史

受講生が課程の魅力を紹介

充実の学外研修でリアルな教育現場を知る

山田 康太 (2部人文学部日本文化学科)

※H30年度北海道教員採用試験合格(高校国語)

中学校国語・高校国語



教職課程では、教員としての基本的な心構えだけでなく、教育現場で求められる実践的なスキルにいたるまで、学部の授業と並行して4年間で学ぶことができます。また、学外研修といった課外活動も充実しており、リアルな教育現場を知ることができるというのも魅力のひとつです。

教職課程は面白い

教員が課程の魅力を紹介

同じ志を持つ仲間との切磋琢磨が未来を拓く

板東 眞一 (人文学部英米文化学科講師[教職課程])

人は誰でも、一生のうちに幾人かの思い出に残る先生に出会うものです。教職課程で教師を目指し授業や学内外での研修、インターンシップなどのボランティア活動をととして、専門の理論や実践力を養うために努力している学生たちの多くは、そんな素敵な先生との出会いを経て自らの夢を実現させようとしています。同じ志を持つ仲間と切磋琢磨し、人としての成長を図ること。これこそが未来を拓く鍵となります。



社会教育主事課程

都道府県や市町村の教育委員会事務局などに配属され、地域住民の学習・文化活動への支援を行う専門職「社会教育主事」の資格を取得するための課程です。

図書館学課程

国公立・私立図書館において専門的な業務を行う「司書」、小学校・中学校・高等学校などで学校内の図書館を管理・運営する「司書教諭」の資格を取得するための課程です。

※各種課程の基礎資格・修得単位数・受講料などの詳細につきましては、大学案内や大学webサイトをご覧ください。

日本語教員養成課程



Ⅱ 受講生が課程の魅力を紹介

ボランティア日本語教室のTAとして参加して

齊藤 しほ (2部人文学部英米文化学科)

私は1年次から日本語教員養成課程を受講しながら、日本語ボランティア教室でTAとして活動しています。2年次に参加した当初、しばらくは見学するものだと思っていたので、初めから学習者に付き日本語を教えることに、知識があまりにもなく不安と戸惑いばかりでした。しかし、この最初の経験こそが、私自身に日本語教員として日本語を外国人に教えるという責任感を自覚させてくれたのだと思います。参加して1年が経ったころ、初めてTAとして授業をやらせてもらいました。2年目も続けていくつもりですが、この授業を通して、1年経験してやっと得たものがあります。それは「自分が話している言葉すべてに責任を持つ」ということです。

- 日本語非母語話者に対する日本語教員の育成を目的に、1998年に道内大学初の日本語教員養成課程が設置されました。
- 本課程のカリキュラムは、言語（日本語）、外国語、社会・文化・地域、教育（教授法）の領域から構成されており、幅広い知識と基本的な教育能力を身につけることができます。
- 海外の大学もしくは国内の日本語教室で日本語教育の経験を積む、実践的科目も設置されています。
- 課程修了者には、大学卒業時に**日本語教員養成課程修了証**が授与されます。



ボランティア日本語教室で生徒さん、先生と（前列左から2人目が齊藤さん）

私たちが日本語教員として話す言葉のすべてが学習者にとってのすべてになる、ということに胸に、これからも日本語教員になるために、またボランティア教室で日本語を教えるものとして日々努力していきたいです。

Ⅱ 日本語教員養成課程は面白い 教員が課程の魅力を紹介

日本語教員養成課程に関心のある方へ

中川 かず子 (人文学部日本文化学科教授[日本語教員養成課程委員会・委員長])

日本語教員養成課程では、日本語教師になるための必要な科目を履修します。ただ、本課程で学べるのは教師資格の最低条件を満たすための教育内容です。言語、教育、文化・社会領域に関する課程開講科目は重要かつ必要ですが、これだけでは十分でなく、実践的な教育能力がさらに求められます。2016年度から「日本語教育特別演習」という「実習科目」が加わり、海外、国内の日本語教育現場で教育実習をする機会を提供しています。市内のボランティア教室、海外の提携大学がその中心舞台になります。それ以外にも、希望者にはボランティア教室のTA（アシスタント教師）、提携校以外の海外の大学（これまで、英国カーディフ大学、中国雲南師範大学など）での実習を勧めています。

卒業後すぐに現場で経験を積みたいという人には、アジアの教育現場（モンゴル、タイ、ベトナムの日本語学校、高校、大学など）を紹介しています。国内外で2年以上経験すれば、専任日本語教師の職が得られやすくなります。最近では道内の地方都市に外国人「技能実習生」が増加し、受入れ団体は専任日本語教師を募集し始めており、日本語教師の需要が高まりつつあるのを感じます。関心のある皆さん、是非、頑張ってください。



右が中川先生

学芸員課程



Ⅱ 受講生が課程の魅力を紹介

博物館を身近に感じられる機会の多さ

佐々木 武尊 (1部人文学部日本文化学科)



学芸員課程では学芸員の方が講義を行い、先生方の経験に基づく話などからも学ぶことができます。1年次から博物館における実際の業務が体験できたり、職員の方々の仕事を間近で見られたりしたことで、より興味が湧きました。

- 小さな町の郷土資料館から都会のおしゃれな美術館にいたるまで、「博物館法」に定められた専門的職員、すなわち**学芸員**を配置することが求められています。
- この資格を取得するためには、学芸員課程が設置されている大学で特定の科目を履修する必要があります。
- 提携先の小樽市総合博物館などで、博物館資料の収集・保管・展示・教育をじっくりと学びます。

Ⅱ 学芸員課程は面白い 教員が課程の魅力を紹介

ミュージアムの現場を知ることで社会を俯瞰する

手塚 薫 (人文学部日本文化学科教授)

学芸員課程の学びのコンセプトは、受講生に普段から現実の社会とのつながりを意識してもらうことです。講師陣のほとんどは現役のミュージアムの学芸員です。ミュージアムで繰り広げられる日常への実践的な対応を学ぶことで、社会において必須とされる考え方の基本を身につけます。

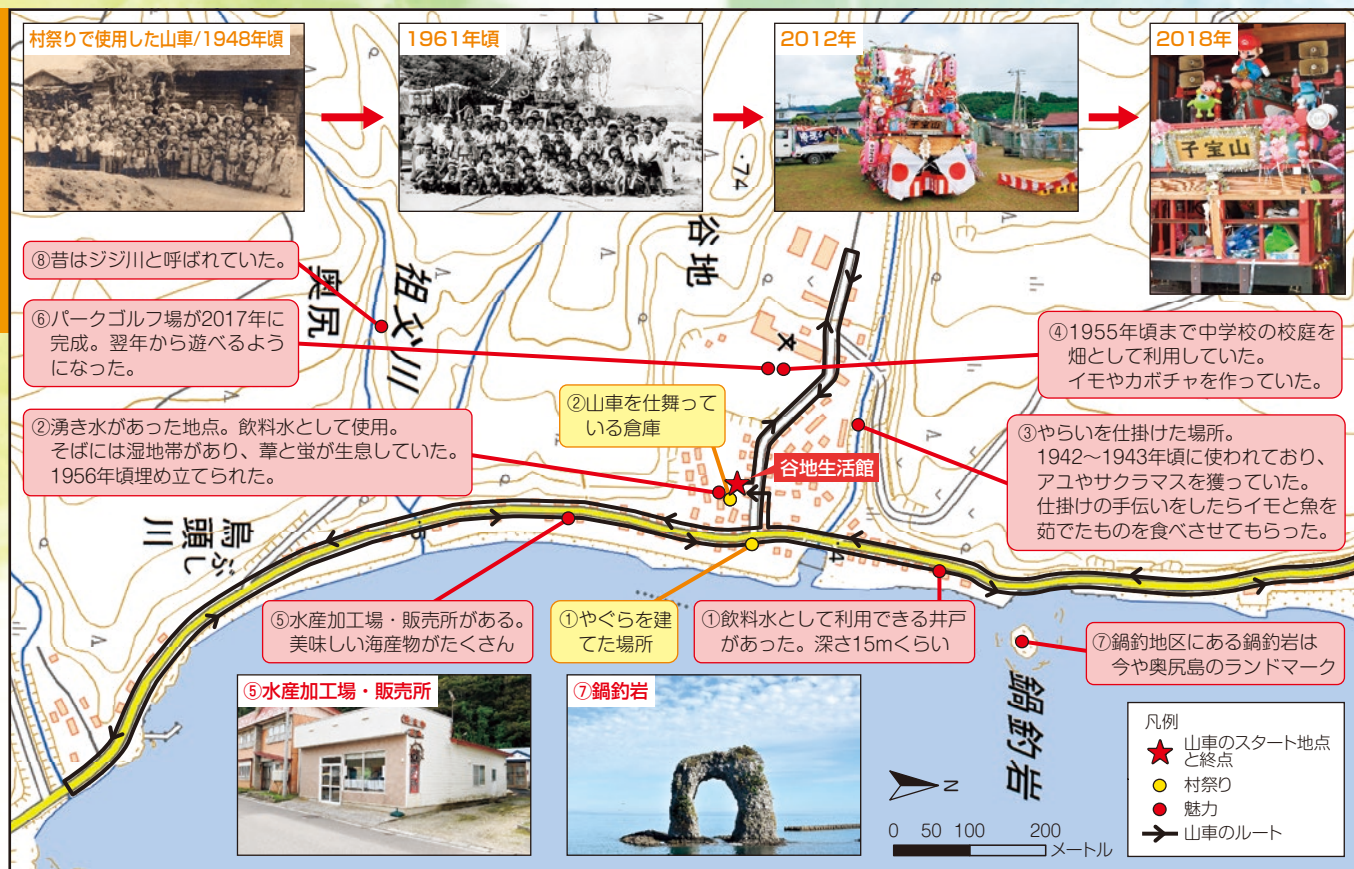


人文学部専用サイトで学芸員課程ニュースを配信中です！

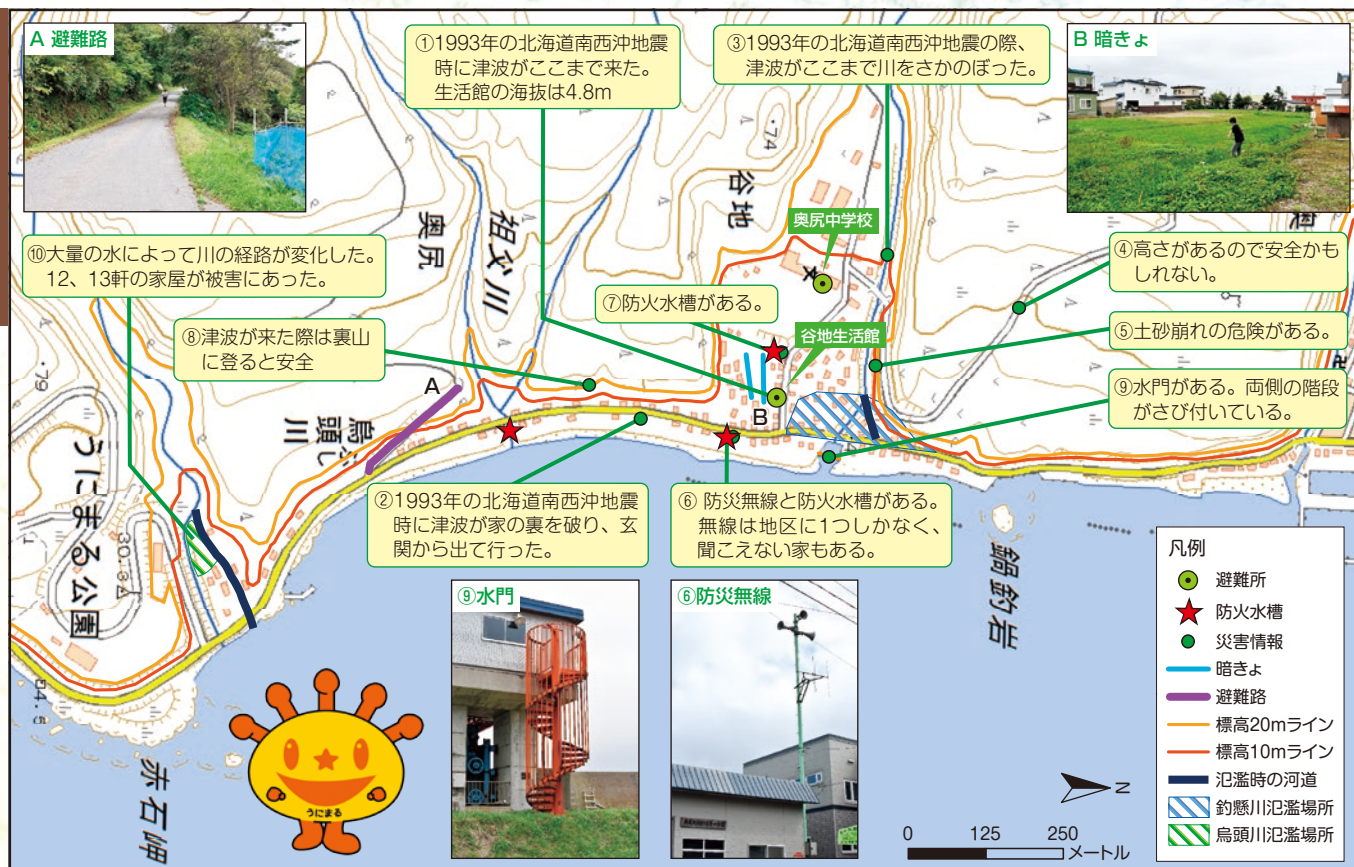
記憶地図ワークショップ

in 奥尻 谷地地区

村祭り魅力編



災害編



うにまるイラストデータの提供：奥尻島観光協会

記憶地図ワークショップとは

2018年8月に学芸員課程受講生5名が奥尻島谷地地区において、地元の方の記憶や知識の保存・継承を目的とした調査を行いました。被災地の復興支援としても活用されている「記憶地図」を用い、8名の住民の方に参加していただき「村祭り」「魅力」「災害」について会話を進め、記憶を呼び覚まししながら修正を加えるという活動をワークショップ形式で実施しました。その内容を学生がGIS（地理情報システム）で処理し、可視化したものが左の2枚の地図に要約されています。



法学部1部 法律学科3年

学芸員課程履修中（札幌手稲高校卒業） **佐々木 理子**

記憶地図ワークショップは3年前に中止となった村祭りの情報を、記憶が風化しないうちに記録する目的で行いました。村祭りの他にも、過去の災害や地域の魅力などの情報を地図上に記録しました。また、記憶地図を通して谷地地区の住民の皆様と交流を深めることができました。私たち学生を快く受け入れて下さり、感謝申し上げます。私たちの活動を目に見える形にし、島の内外へ発信することで、ご協力頂いた奥尻島の皆様へ成果をお返しすることに繋がればと思っています。

人文学部1部 日本文化学科3年

学芸員課程履修中（札幌平岸高校卒業） **蟬塚 咲衣**

今回の研修ではテーマを「村祭り」とし、3週間で様々な地区の「村祭り」取材しました。ワークショップでは参加者の皆さんから数多くのエピソードを伺い、谷地地区の「村祭り」に対する誇りや思いが伝わってきました。現在、谷地地区は子どもがいないことを理由に山車曳きを廃止していますが、ワークショップを行うなかで「もう一度できないか」という動きが見られたことには驚きました。これからも奥尻島の皆さんとの交流や、記憶地図の活動を継続させていきたいです。



人文学部1部 日本文化学科2年

学芸員課程履修中（札幌東陵高校卒業） **浅妻 佑軌**



今回の村祭りワークショップで、私は「魅力」の聞き取りを担当しました。当日は、複数の人がそれぞれ話をしている中から地区の魅力に関する話を選び、メモを取るのが中々大変でした。ただ、その中でも、近くの川に生息している魚や美味しい食べ物、昔と今で変わった事などを聞く事ができたのが楽しかったです。私自身、このような経験は今まで無かったので勉強になりました。これからの学習にも生かしていきたいです。

人文学部1部 日本文化学科2年

学芸員課程履修中（北海高校卒業） **高橋 佑惟**

ワークショップでは「村祭り」の聞き取りを担当しました。谷地地区の村祭りで使用した山車は現在、谷地生活館近くの倉庫に保管されています。それ以外にも、谷地地区についてさまざまな話を聞かせていただきました。今回の研修で私は初めて奥尻島を訪れたのですが、地元の方だからこそご存知の奥尻島の魅力をたくさん教えていただきました。短い時間ではありましたが、新しいことを知り、島の方々と交流ができてとても充実した時間を過ごすことができました。このような貴重な経験ができ、とても嬉しく思っています。



人文学部日本文化学科 教授
学芸員課程委員会委員長

手塚 薫 先生

からのコメント

私が奥尻島に滞在していたのは数日間だけで、当初から学生主体の行動となりました。最長で3週間という長期滞在者もあり、調査の準備・実施・とりまとめから炊事、洗濯を含む日常生活全般まで多忙を極めました。クライマックスは谷地地区でのワークショップでした。得難い経験を積みながらも、調査の困難さも味わったことでしょう。島民のご支援はもちろん、稲垣森太氏（奥尻町教育委員会）のきめ細かいサポートがなければ、これほどの成果を挙げることはできなかったでしょう。

日本文化学科

鈴木 英之
3年ゼミ(1部)
【日本思想史】



私のゼミでは日本の宗教文献、日本仏教の書物を扱っています。宗教というと、何だかうさんくさいと思う人も多いでしょう。ですが宗教者たちの書物を読んでいくと、宗教心を起こす起点となるのは、常に「自分は何者なんだ」という自己に対する強烈な問いかけにあることを気付かされます。

2018年度は、いわゆる鎌倉仏教の祖師たちの思想書を読んできました。浄土真宗の祖・親鸞は、自分自身をこの世でもっともひどい「悪人」と位置付けました。それでも救われる方法を「ナムアミダブツ」という念仏を唱えることに見出し、自らの救済を全力で他力＝阿弥陀仏に委ねます。また自身を、この世で救済から最も遠くに位置する最低の悪人とすることで、そんな自分＝悪人さえ救われる力をもつ念仏ならば、ほかのどんな人でも必ず救われるはずだという確信を得て、自らの教えを人々に説いて回りました。もちろん、現代人とは環境も思想も大きく異なっており、一概には比較できないでしょう。しかし、こうした宗教的な思索に至る原因



となった葛藤や悩みは、いまの我々とほとんど変わることはありません。

ゼミでは、現代語訳ではなく、宗教者たちの語りがそのまま記された原典（原文）を読んでいます。内容を理解するには古文や漢文の知識が必要になります。また専門書や学術論文を参考にして、自分自身の力で考えていかねばなりません。間違いなく苦勞します。けれども、試行錯誤しながら難解な宗教文献を読んでいくのは歯ごたえがあり、知的好奇心がピシバシ刺激されます。答えが見つからないことも当たり前。しかし、議論を繰り返して、行きつ戻りつしながら読み解くことができたときの面白さはゲームの比ではありません。皆さんも宗教の奥にある、人間の生々しい叫びをのぞいてみませんか。

ゼミ紹介

英米文化学科

小松 かおり
3年ゼミ(2部)
【生態人類学】



小松ゼミは、人類学を学ぶゼミです。人類学では、自分とは異なる文化について学ぶことで、人間の文化の多様性を知り、自分の常識を相対化します。

3年生のテーマは、「食」と「フィールドワーク」です。1学期には、人間にとって当たり前の「食べる」ことを学問的に考え、わたしたちはなぜある食べものを選んだり、ある食べものに価値を与えたりするのか、日本や北海道の食にはどのような特徴があるのか、ということ、まずは本を通して学びます。

2学期には、毎年違うテーマでフィールドワークをします。フィールドワークとは、本やネットの情報ではなく、学外で「生の」情報に触れて、見たり聞いたりすることから考える、という研究方法です。これまでに、「札幌のネイティブ料理人レストラン」、「留学生の食事情」、「那覇の市場と沖縄の



食」、「札幌ハラル事情」などのテーマでフィールドワークを実施してきました。演習のテーマを発展させて卒業研究をした学生もいます。

今年の二部のゼミでは、「隣人の食を知る」をテーマに、9名が2班に分かれてフィールドワークをします。ひとつの班は、札幌在住のアフリカ出身者の食文化について、もうひとつの班は、アイヌにルーツを持つ人たちの現在の食文化について調べています。この班は、先日、みんなで白老にお話を聞きに行きました。



文化人類学は、本からだけでなく、人に会い、話を聞き、ときには一緒に食べながら、五感を生かして学びます。フィールドワークは出会いであり、現実とは本で整理された世界よりも混沌としています。そこから何を読み取ることができるでしょう。直接触れたからこそ見える世界がある、と感じられることが、フィールドワークの醍醐味です。

人文学部 TOPICS

人文学会第6回大会レポート



2018年12月8日(土)、北海学園大学人文学会主催のシンポジウム「人文学(文化研究)と実学(観光研究)と実践(観光振興)をつなぐ——世界遺産は我々に何を語りかけ、それをどのように受けとめ、伝えていけばいいの——」を開催しました。

シンポジウムでは、人文学の見地から世界遺産の持つ意義や、観光という営みの可能性についての共同研究を行う教員が報告をしました。また、コメンテーターやフロアの方々と報告内容や今後の課題について、活発な議論を交わしました。

人文学の挑戦

人文学部教員の研究成果を広く社会に還元するイベントである「人文学の挑戦」を、紀伊国屋書店札幌本店インナーガーデンや図書館で開催しました。今後もさまざまなテーマを取り上げ、人文学の魅力を発信してまいります。開催予定は学部HPやFacebookなどでお知らせしていますので、ぜひお気軽にご参加ください。

第16回 人文学の挑戦 × 北海道みらい事業

2018年7月15日(日)

「内村鑑三の生きた北海道、
世界が読んだ内村鑑三」

小柳敦史

(北海学園大学人文学部
英米文化学科准教授)

岩野祐介

(関西学院大学神学部教授)



第17回 人文学の挑戦 × 北海道みらい事業

2018年10月7日(日)

「アイヌ文化と森——人々と森の関わり——」

手塚薫

(北海学園大学人文学部教授)

出利葉浩司

(北海学園大学
人文学部客員研究員)

内田祐一

(文化庁文化財部伝統文化課
アイヌ文化振興調査官)



第18回 人文学の挑戦 × 恵庭市立図書館

2018年12月2日(日)

「知っているようで知らない「鳥獣戯画」」

徳永良次

(北海学園大学人文学部
日本文化学科教授)



株式会社 AIRDO(エア・ドウ)と 教育連携協定を締結

2018年10月18日(木)、エア・ドウと北海学園大学人文学部は、「北海道の未来を支える人材の育成」を目的として、教育連携協定を締結しました。このたびの教育連携協定は、北海道との協力関係を構築するための事業の一環で、エア・ドウと北海学園大学人文学部の両機関が、「北海道を支える人づくり」に関する取り組みを行うものです。今後、北海学園大学人文学部が開講する各種講義に、エア・ドウが講師として社員を派遣することを通じて共に人材の育成に取り組んでいきます。

全国高等学校 ビブリオバトル2018 北海道大会を開催!

2018年11月18日(日)、「第5回全国高等学校ビブリオバトル2018北海道大会」(主催:北海学園大学、共催:活字文化推進会議、後援:北海道教育委員会・札幌市教育委員会・北海道高等学校文化連盟・読売新聞社)が開催されました。全道から集まった17名の高校生バトラーの4名が決勝に進出しました。たくさんの聴衆を前に行われた決勝の結果、梨木香歩著『村田エフェンディ滞土録』(角川書店、2004年)を紹介した大久保絵未さん(札幌聖心女子学院高校)が優勝し、全国大会への出場が決まりました。



ヒューマン 2019.2 Vol.12

表紙キャッチコピー:

文化についての深い理解を涵養することが異文化社会に生きる人々と真のコミュニケーションを結ぶ力になる、という人文学教育の理念をあらわしたものです。

文化を学ぶ 世界と繋がる



北海学園大学人文学部

日本文化学科(1部・2部)／英米文化学科(1部・2部)



〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 TEL.011-841-1161(代表) FAX.011-824-7729

URL <http://human.hgu.jp/>

制作・印刷: (株)アイワード PD: 馬場康広 [(株)アイワード 2000年人文学部日本文化学科卒]